

新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって希望に満ちた1年となることを祈念いたします。

内外共に社会経済情勢の定まらない時代となってきました。トランプ大統領の掲げる米国第一主義は各国に国益優先の非グローバル化という協調性の無い道を選択させているようです。

中国の覇権主義的な姿勢も東南アジアのみならず各国の警戒心を高めていますし、イギリスのEU離脱、ロシアとウクライナの関係も複雑に絡み合って日本の将来に関わる大きな話題です。長期政権となった安倍内閣のぶれない舵取りに期待するばかりです。新しい元号となる今年はあらゆる意味で転換期を迎える時でありこれからの日本の方向を見定める大切な時期です。

経済活動の中核を担う建設関連産業は幅広い業種により構成されています。その多くは国家資格である建築士の活躍する領域です。会員一人一人が建築士としての社会的責任を改めて自覚し職能人として社会から信頼されるよう努力をしなければなりません。

政治の安定無くして経済の発展なしと言われますが新元号となる今年、歴史に学び文化を大切に、「活力ある神奈川の街づくり」、「安心で安全な街づくり」に取り組めます。

オリンピック以降の経済情勢、世界情勢が見えにくい時ですが、多発する地震災害や集中豪雨など今まで経験したことのない大きな自然災害の発生を受けて、「安全と安心」は「環境問題」とともに社会全体で取り組むべき最大の課題となりました。

さて2020年の東京オリンピックも間近となり、首都圏の建設ラッシュや各種施設の急ピッチの建設等により建設関連の工事量は急増し、労働力、熟練工の不足や資材・労務のコスト上昇が起こっています。働き方改革により建設産業も環境改善が進みつつありますが広い視野に立って、人口減少、環境問題、バリアフリー等多くの課題の解決をはかるために、新しい発想を持って多面的に建築のあり方を再構築することが求められていると思われま

このことは、昨年暮れに成立した改正建築士法においても現れていると思っております。

昨年の建築士会の全国大会はわが関東甲信越建築士会ブロック会の埼玉県で開催されました。埼玉建築士会の入念な企画



と多くの参加者により盛大な大会となりました。神奈川からは80人の参加があり村松久氏(川崎支部)、津田孝之氏(湘南支部)、小笠原泉氏(横浜支部)、村島正章氏(県庁職域支部)の4名が連合会会長表彰を受賞されました。長期にわたる士会への活動が評価されたものであり、士会への貢献は素晴らしいものが有ります。これからも士会活動の模範としてご活躍くださることを期待しております。また今回は、伝統的技能者表彰に会員である 芹澤 久男 氏(小田原地方支部)が受賞されました。伝統的技能の継承は基より、士会活動への貢献もしていただいております。

建築士会では日常の業務を通じての士会活動、講演会、講習会、見学会などへの参加やそこから生まれる新しい交流や、ネットワークへの参加により得ることのできる充実感、達成化が大きな魅力であることを感じます。

しかし残念ながら、建築士会の会員数の減少傾向は改善されません。重点施策として会員増強を訴えてきましたが、さらに強力に運動を展開して行かなければなりません。士会会員であることのメリットは貴方が士会会員であることにほかなりません。建築士としてのコンプライアンスを大切に、社会への責任を持った建築士の存在を広く社会に訴え、リスペクトされ、信頼される建築士を目指しましょう。建築士会の会員である事が誇りであり、ステータスである事を自覚し活動を展開して行きましょう。

皆様と共に新しく迎えたこの1年を実り多い年としたいと考えますので宜しくお願いいたします。

第 61 回建築士会全国大会「さいたま大会」は、平成 30 年 10 月 26 日（金）にさいたま市大宮ソニックシティをメイン会場として、『歴史に感謝 未来に約束 ― 今 埼玉に集う 彩り豊かな暮らしの創造』をテーマに開催されました。

大会は、前日の 25 日（木）に行われた「全国建築士フォーラム」や「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会」を皮切りに、26 日の大会当日には地域実践活動発表会（青年委員会）と 10 のセッションが行われ、午後からは記念講演会に引き続き大会式典が開催され、式典後はメイン会場に隣接するパレスホテル大宮において大交流会が開催されました。

また、翌 27 日（土）には 6 コースに分かれて地域交流見学会（エクスカージョン）が開催され、数多くの会員の方々が埼玉の歴史ある街並みや伝統工芸に触れています。今大会は近県である埼玉県での開催ということもあって、神奈川県建築士会からも多くの会員が参加しました。この第 61 回建築士会全国大会「さいたま大会」の主なセッション等について報告します。（SALON 編集部）

## — 大会式典 —

### 歴史に感謝 未来に約束

大宮ソニックシティ・大ホールにおいて開催されたメインイベントである大会式典は、オープニングセレモニーである埼玉県立松山女子高等学校箏曲部の皆さんの見事な箏のアンサンブル演奏で幕が上がりました。



オープニングの箏演奏

埼玉建築士会・佐藤副会長の開会宣言に続いて、埼玉建築士会・江口会長及び日本建築士会連合会・三井所会長の挨拶ののち、連合会会長表彰、伝統的技能者表彰、連合会賞（作品賞）表彰等が行われ、各機関・団体からの祝辞をいただき、大会アピールと続いていきました。大会の最後には、来年度の大会開催地である北海道建築士会に大会旗が引き継がれ、開催地・函館と道南地方の魅力を紹介するアピール映像が上映されました。

また、大会当日は式典会場の他にも、国際会議所ロビーでのパネル展示や、ホール前のホワイエにおける

企業による出典ブース、また地下階の展示場やサンクンガーデンでは埼玉物産展や飲食ブースが出店し、全国から集まった建築士の皆さんはさいたま市での秋の一日を堪能していました。

（SALON 編集部）

## — 記念講演 —

### 人工知能を活用した未来社会

さいたま大会の大会式典に先立ち、大宮ソニックシティ・小ホールにおいて、上田修功氏（国立研究開発法人・理化学研究所革新知能統合研究センター副センター長）による記念講演会が開催されました。

事前に整理券を配布するほど講演会へ期待度は高く、上田講師は満席の会場で全国から集まった建築士に対し AI を活用した様々な社会実験や研究事例について 1 時間半にわたって講演されました。

講演の内容である AI の学習能力と計算能力の高さに着目した研究事例は、長期的な気象情報を如何に確実なものにするか、大競技場での試合時の周辺道路における観客の入退場の経路を分散し混雑集中を如何に合理的に回避させるか、また自動車の自動運転において AI がどのように周囲の状況を把握して事故を回避し安全な運転を行うことができるのかなど、現在まさに私たちが直面している課題の解決方法を話題としたものでした。今後、建築の分野において AI がどのような革新をもたらしていくのか、これからの進展が非常に期待される先端技術の話題満載の講演でした。

（SALON 編集部）

## 歴史・景観まちづくりセッションへの参加

横浜支部 大原 健

私は2018年10月26日埼玉県大宮市大宮ソニックシティで開催された「第61回建築士会全国大会」への出席に伴い、「歴史・景観まちづくりセッション」に参加した。同セッションは各都道府県の建築士会における活動の1つに位置づけられている。

日本全国にちらばる歴史的な建造物の保存から街づくりまで様々な活動を、仕組みづくりや建築そのものを保存・活用する事例及び取り組みを発表する場である。

昨今、建築を取り巻く計画的な活用に関して、所有者、行政、街に住まう方、リノベーションに興味がある方が増え、1つ1つを繋ぎ、点から面（街）で考える裾野の広がりを感じた。また、リノベーションが解決の有効的な技術・手法として認知される時代になっているとも個人的には考える。

各発表をお聞きした所感は、建築を行う動機が、古いから壊し、新築することではないことだ。個々の建築を財産として継続利用し、課題解決に応じた改善をすることで新しい価値観が生まれ、その「価値観に共感する時代」に変わったと考える。同時に、行政が仕組みづくりで悩む姿が見え隠れしつつも、専門家以外の街づくりに興味がある方を上手く巻き込んでいる発表が多数である。

行政には日本の本質的な課題が見え、その解決方法を指導できる実力がある。今更ではあるが、昨今、日本の街づくりの課題としては、環境負荷の小さい街づくり、人口減少期の市街地・郊外・地方を問わず、街の活力低下、マンション等の老朽化等が挙げられる。場所を問わず共通のもので、本セッションでも同じ課題があると考えられる。

このような状況下でスマートシティの実践やコンパクトシティ・ネットワークの街づくりが課題解決として挙げられ、ストックの再生や景観保護が重視されている時代である。そのような背景のもと、歴史的な建造物の課題も数多く挙げられていた。例えば建築基準法、消防法等との整合性である。

また、景観を整備したとしても、地方によくみられる古い建物の中に駐車場があるケースでは歯抜けの印象を軽減する、景観を配慮したルール策定等の工夫は興味深い内容であった。全体最適への努力・工夫は横展開するべきと感じる。

また、印象的なことは、発表の根底に、古い街並だから保護するのではなく、地方らしさ、街らしさ、都心らしさ、歴史を感じる etc、それぞれの「らしさ」を形成し、場合によっては付け加える重要さを感じた。「らしさ」は地元の意見が大きい位置を占めている。様々な考えのもととなる「らしさ」の議論を重ねている過程には興味を覚える。

他方で、我々建築の専門家としての建築家の役割変換を求められていると感じざるをえない。建築的な主張ではなく、街のなかで醸成される空気感を、美意識に置き換え、表現する時代に移っている。



歴史・景観まちづくりセッション

今後は、再生の手法が整備され、一般化される時代が到来すると考える。整備が必要なことを行政、民間という軸ではなく、街づくりに必要なメンバーが中心となり、景観保護とまちづくりされた建築を使う側の共生に論点が移る発表が印象的である。

最後に、京都で著名な町屋が解体されたニュースを耳にする機会が至近であった。

今回報告されたセッションの取り組みは素晴らしと思う。しかしながら、各都道府県の建築士会で取り組んでいる仕組みづくりが機能できたとしても、京都のように街の意思が、活況を呈している不動産価値向上やインバウンドと戦えるのか、誰のためのまちづくりなのか？何度も問いかけつつ、巻き込む相手を間違えずに、正しいまちづくりを常に心掛け、コントロールできる位置に建築士会はいるべきであると感じた。

# 全国大会特集

## 青年委員会セッション 地域実践活動報告

青年委員会 伊藤 誠一

青年委員会セッションは全国 47 単位士会の地域実践活動の中から、各ブロックの青年建築士が推薦した活動事例の発表を行います。

岩手県「おうちをつくろう」、愛媛県「とびだせ建築士」、長野県「ツミキノチカラ」、福井県「まちあるき MAP 製作事業」、奈良県「五感で感じる木の事業」、北海道「ふれあい木工教室」、熊本県「日本遺産・人吉球磨地域における建築士の役割」が推薦され、活動事例の報告が行われました。

各ブロックの活動を全国の仲間達と共有し、活動のさらなる発展、自己研鑽、理解をして自県に持ち帰ることを目的としている為、多くの青年建築士で会場は埋め尽くされ、自県にどのように持ち帰ることができるかを模索しているようでした。また、青年セッションでは参加者全員で優秀な活動に投票し、最優秀賞、優秀賞の表彰を行います。今年も何と、関東甲信越ブロック代表、栃木大会で推薦された長野県の「ツミキノチカラ」が最優秀賞を獲得し、京都大会に続き 2 連覇となりました。



最優秀賞を獲得した長野県安曇野市では里山が抱える問題を明らかにし里山の再生を目指すため、安曇野材利用促進プロジェクトが発足した。そこで長野士会安曇野支部がもっと子ども達に地域を知るきっかけづくりとなるイベントが無いかと考えたのが『松枯れ材』を活用したツミキノチカラでした。一定の寸法の積み木を積み上げ色々な形を作ることができる。その積み木の数は 2 万

個も用意されているらしい。全国の発表を聞き自県に何を持ち帰らなければいけないかと言うことが見えた気がしました。



地域実践活動表彰

## 女性委員会セッション 魅力ある和の空間

女性委員会 山田 夏江

女性委員会セッション「魅力ある和の空間ガイドブック WEB 版」制作記念トークイベントが行われました。

全国大会では、東京都・北海道・愛知県・京都府・岡山県の代表が施設紹介・分り易いプレゼンテーションと、活発なディスカッション。

自分もその空間に居る様な、臨場感を感じました。

建築士・女性ならではの視線。不要なものを削ぎ落したシンプルな空間が魅力で、一般の人が親しんでいる建物が多く推薦。

現在でも通じる居住性や快適さを持ち合わせた「和の空間」日本ならではの四季のしつらえや、庭園の楽しみ方。

先人達の見事な作品。現在でも、保存され、公開されているのは、貴重な財産だと思います。

神奈川女性委員会では、三溪園鶴翔閣・旧柳下邸・旧吉田邸を掲載。現場見学会を行いました。

ガイドブックにはあまり掲載されていない、女性建築士から見た魅力ある「和の空間」

機会があれば、情報を元に、全国の魅力ある和の空間へ訪れてみたいと思った次第です。是非、HPをご覧ください。

日本建築士連合会 女性委員会 HP

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/guidebook.html>



女性委員会セッションの様子

## 防災まちづくりセッション

防災委員会 東 二郎

はじめに、日本建築士会連合会防災まちづくり部長佐藤幸好氏の「復興等支援に係る事前活動指針」について概略説明を頂いた。

### ステップ2：事前活動指針に係る取組事例

大分県建築士会より罹災証明交付支援活動について、和歌山県建築士会より応急木造仮設住宅の建設に関する協定について、徳島県建築士会より風水害等の被災住宅復旧マニュアルについて説明を頂きました。罹災証明のための被害認定調査については、被災者の応急仮設住宅の入居や行政の住宅復興支援金に大きく関わる事と、建築技術的な視点から、建築士・建築士会に対する協力要請のニーズが高まっているとの事であった。風水害等による被災住宅復旧マニュアルでは、応急復旧活動フロー図にて全体の流れが分かり易く明示されている。また活動主体のやるべき事として、市町村のやるべきこと、建築士会のやるべきことを具体的に明示されていて、参考になるマニュアルであった。この資料がある事で事前防災活動に大変役立つと思われた。



熱心に説明を聞く参加者

### ステップ3：発災現場での活動内容について

熊本県建築士会から復旧復興の活動とその課題、岡山県建築士会倉敷支部から災害時の建築相談開設と復興のまちづくり活動について報告があった。

熊本県では、県より建築士会に対して応急危険度判定の協力が少ないのではないかと指摘があったようですが、今回の地震被害が局所的なものではなく広範囲であり、被災している立場なので理解して頂くようお願いしたとの事でした。岡山県では、建築相談開設にあたり、マニュアルがなかったのを徳島県で災害時の対応マニュアルがあることをお聞きして対応マニュアルを送って頂いたとの事でした。

## 福祉まちづくりセッション

福祉部会 熊澤 徹

福祉まちづくり部会による「福祉まちづくりセッション」に参加して参りました。

第一部では、福祉分野に関する各県の取組についての報告がありました。岐阜県建築士会の「福祉のまちづくり建築士」の研修と相談員の派遣制度、愛知建築士会の「地域ケア会議」への出席、群馬建築士会の「リフォームヘルパー」の取組、東京建築士会の「これからの住まいづくりに活かせる連続講座」の開催、秋田県建築士会の「秋田花まる住宅サポートネットワーク」の取組、石川県建築士会の「バリアフリー住宅改修等支援事業」への取組、徳島県建築士会の「バリアフリーデザイン研究会」の活動等、特色のある様々な活動報告がありました。

第二部は、厚生労働省老健局高齢者支援課の松本琢磨氏をお招きし、「地域ケアシステムと高齢者の住まい」をテーマに、介護保険を取り巻く状況、高齢者の住まいの考え方、介護保険の福祉用具、介護保険の住宅改修、福祉用具・住宅改修のあり方についてご講演を頂きました。

第三部は、「2025 地域包括ケアシステムにおける住まいの担い手・建築士とは」をテーマにディスカッションが行われ、中村部会長をコーディネーター、山中連合会副会長と講演をされた松本様をオブザーバーとし、第一部で発表をされた各県の方々が登壇され、地域ケアシステムの中での建築士の必要性、担っていくべき役割を検討し、今後いかに係わっていくか、その方向性について議論が交わされました。これからは建築士の側からの積極的な働きかけが必要だと感じました。



フォーラムディスカッションの様子

## 埼玉セッション

川越の歴史的建築修復—施主と設計者は語る—

県庁職域支部 村島 正章

～路線がつながり横浜から近くなった関東有数の観光地「川越」は、今でこそ小江戸川越の名に相応しい歴史的町並みが訪れた人々を惹きつけてくれるが、40年近く前は老朽化し取壊しを待つ商家・蔵が並ぶ閑散とした街だったという。その後、蔵などが地域資源であり歴史的建造物としての価値があることに気づいた市民が立ち上がり、行政や専門家達が彼らの活動を支え、やがて「川越蔵の会」「町並み委員会」が誕生し、今も活発な活動を続けている～

当日は、まず第1部では、元行政マンで学生時代から川越のまちづくりに関わり続けている荒牧澄多氏が基調講演で、江戸時代から今日に至る歴史や活動の広がりを紹介し、第2部では、荒牧氏をコメンテータとし、設計士であり大学の非常勤も務める木元洋佑氏がコーディネータとなってパネルディスカッションが行われました。パネラーは地元生まれの建築士（守山登氏）vs 施工者（地元工務店 4代目の松村定明氏）、地元生まれの建築士（馬場崇氏）vs 施主（地元生まれで元テレビプロデューサーの小島正巳氏）の4名が登壇し、それぞれが関わった商家や蔵の復原・修復工事の紹介や修復工事に対する行政の補助の状況、工事に至るまでの



の出会いや人と人とのつながり、地元への思いなどが熱く語られました。小島氏が大河ドラマの制作を通して蔵に興味を抱き、地元で建物付きで



会場で紹介された改修前の状態

売り出されている土地を購入し、10年越しで荒牧氏への相談を経て馬場氏に設計を依頼し、正面部分の修復が実現した話など大変興味深い内容でした。

大会の後、我々は川越に宿泊し、翌朝、紹介された建物も含め蔵造の町を散策し、数時間だけでも風情に浸ることができました。



筆者撮影の修復後の小島家住宅

## 空家まちづくりセッション

空家等の利活用における建築士の役割

湘南支部 桑山 直子

近年、人口減少などに伴い空き家が増加しており、全国平均でも13%を越えています。私が住む藤沢市も例外ではなく、他県の活動状況も知りたいと「空き家まちづくりセッション」に参加しました。

事例報告として兵庫県、徳島県、山形県、埼玉県から発表がありました。兵庫県からは「空き家活用に関する建築士のための養成講座」として、空き家の問題に対応できる人材を育成するための講座を開催し、2日間の講習と修了試験の合格者に免許証を交付する内容が発表されました。徳島県は「空き家対策に関する自治体との協働」というテーマで、空き家判定士制度や特定空き家対策マニュアルと活用事例の作成に加え、竜王団地再生計画が発表されました。山形県からは「他の専門家との協働による空き家対策」というテーマで「特定非営利活動法人つるおかランド・バンク」の活動が発表されました。これは鶴岡市の市街地の空洞化をおこしている住居地域の活性化を目的として、宅建業者、建設業者、司法書士、家屋調査士、行政書士、建築士、金融機関など各専門家が集合して対応するNPO法人です。狭小や無接道宅地を再編して、宅地を再利用できるように変えていくような事も行っています。年月がかかる事ですが、他業種の専門家でも地域づくりのプロチームをつくる事に関心を持ちました。最後に埼玉県からは「戸田市」「寄居町」における空き家利活用提案を通じた活用事例の報告がありました。戸田市ではものづくり大学の研究室と建築士会青年委員会の発表を行った事、寄居町ではいくつかの大学の研究室と建築士会青年委員会とで改修提案の展示や講演会開催の活動が報告されました。4県の発表からそれぞれの地域がもつ課題に対して対策を考え活動を行っている事がよく分かりました。他県の事例がそのまま神奈川県に当てはまるとは思いませんが、他業種との協働など参考になる事も多くありました。

藤沢市でも空き家利活用では所有者と活用を希望する団体との諸条件の折り合いが難しく、空き家利活用審査会での事例はまだありません。また、特定空き家審査会では、空き家が生まれる原因として相続が大きな問題ですが、相続人の住所が不明だったり、相続人間のトラブルなどで行政の担当課も苦慮しています。これからは空き家を生まない対策を考えることも重要だと感じました。

## エクスカーションB

今に生きる建築

なにかいいことありそうな建築巡り

横浜支部 氷室 敦子

エクスカーションB「今に生きる建築 なにかいいことありそうな建築巡り」に参加しました。大宮駅前からバスに乗り込み、まずは埼玉県東部の杉戸町で2つの民家を見学。岩本家は水害後30年以上使われていなかった築200年以上の母屋を昭和の終わりに改修。さらにそれから30年以上経った昨年水回り等を改修。大切に長く住み続けている様子を拝見し、ご家族からお話をお聞きすることができました。その後屋敷森に囲まれた藤城家を見学しバスで宮代町に向かいました。

宮代町では1980年代初めに象設計集団が設計した2つの建物を見学しました。1つめは初代町長の「世界のどこにもないまちを創る」という方針のもと、立派な庁舎は不要、町民のための施設をと作られた宮代町コミュニティセンター「進修館」へ。埼玉名物の鰻をいただいてから設計者の富田玲子さんを交えて見学。中庭を取り囲むように配置され、どこからでも気軽に出入りできるよう考えられています。専用の議場はなく、イベントや演奏会で使用される小ホールに背の高い三角形の背もたれが付いた椅子を並べると議場に変身。食堂やロビーの家具もオリジナルで特産のぶどうをあしらうなど町の風景を取り込んでいます。

最後は笠原小学校へ。子どもたちは外に開放された天井の高い廊下を裸足で行き来しているようで、とても開放的で柔かい校舎でした。廊下には教室から張り出した小さなガラスの談話室や、内緒話にうってつけのアルコーブなどがあり、開放的な半外部空間と、子どもの心の温度を包み込むような小さな空間がリズムカルに配置され心に残る風景でした。



宮代町コミュニティセンター「進修館」中庭

## エクスカーションE

近代和風建築「遠山記念館」と

ユネスコ無形文化遺産「紙漉き」体験

湘南支部 佐藤 里紗

大会翌日の27日(土)は地域交流見学会に参加。神奈川から近くて遠い埼玉の、遠山記念館と紙漉き体験に参加しました。

遠山邸は昭和11年竣工の日興証券創立者・遠山元一氏が母のために川島町の生家を再興した建物です。設計は室岡惣七氏で、全国各地の銘木と優れた技術が見られます。東棟は豪農だったことから茅葺の古民家風、中棟は書院造の来客用、西棟は数寄屋造で母の居間とし、三棟を渡り廊下で繋いでいます。苦労した母のための心遣いが随所にみられます。

遠山美以氏が亡くなられてから遠山記念館として公開されています(S45開館)。蒐集品を展示するための美術館もあり、じっくり楽しめます。



表玄関のある東棟は茅葺の古民家風



西棟の蛭壁

以前から行きたいと思っていた遠山記念館を目的に参加したのですが、箭弓稲荷神社の彫刻も見ごたえがあり、昼食で寄った小川町の雰囲気がとてもよくて、昼休みに駆け足で建物を見て歩きました。

小川町にある埼玉伝統工芸会館での紙漉きも「よくばりセット」で色紙、はがき、しおり、とたくさん作れて楽しめました。

紙漉き作品→



小川町、改めて来なくてはと思ったのでした。



割烹旅館 二葉 (登録文化財)



名物 忠七めし

# 全国大会特集

## 第6回全国ヘリテージマネージャー大会 歴史的建造物を取り巻く法制度改正とHMの役割

相模原支部 内沼 良和

第1回全国ヘリテージマネージャー大会は2013年島根県全国大会から始まり今年第6回目となりオリンピックの年まであと1年となりました。

島根県大会では7年後の目標を立て、各地が連携し交流していくことで発展を期待していきました。

今年、法改正により大きな転換期が到来し、歴史的建造物の活用に大きく前進した感があります。

国土交通省からは「歴史的建造物の活用に向けた条例整備ガイドライン」、文化庁からは「文化財保護法の改正」の解説があり短い時間でしたが有意義な時間でした。また、事例として、川越の条例の概要、他いくつかの活動報告がありました。

背景には、空き家問題、少子化の問題等があり、より文化的な価値のある建物が消失していくという危機意識を地域の建築士、有志が保存を提唱し活動してきた実績が大きく働いたと思います。

法改正により、こういった事例が対岸のことではなく、行政・民間が連携し交流し、歴史的建造物がストックしていく必要性が認識され、歴史的建造物の活用が身近になることにより益々ヘリテージマネージャーとしての活動の場が増えていくことは明白です。より専門的な知識が重要となり建物だけではなく事務処理能力が求められます。

一つ一つの活動が大きく身を結びさらに来年の全国大会では、島根県大会で提唱した目標が、見事達成できるよう活動していきたいと再認識した大会でした。



ヘリテージマネージャー大会の様子



今回の参加された80名の皆さん、お疲れさまでした。次回、第62回建築士会全国大会は「北海道大会」、函館アリーナにて2019年9月21日（土）に開催されます。今回ご参加いただけなかった皆さんも、ぜひ、ご参加ください。



このたびの全国大会「さいたま大会」で表彰された皆さんをご紹介します。おめでとうございます。

## ■連合会長表彰



**村松 久 氏**（川崎支部）  
（株）村松工務店代表取締役  
元防災委員会

「今回の連合会長表彰は、身に余る光栄です。防災 意識の高揚、社会貢献に努力します。」



**津田 孝之 氏**（湘南支部）  
秀建

元支部長、現在は湘南支部相談役として人材の育成にあたっている

「中越・中越沖地震でキャラバン隊に参加し、その体験を支部で会員の方々と意見交換しました。」



**小笠原 泉 氏**（横浜支部）  
横浜市都市整備局  
業務執行理事、情報広報委員長、  
横浜支部総務委員長 他

「みなさまと共にいただいた表彰と考えています。今後とも魅力ある建築士会を共に目指しましょう。」



**村島 正章 氏**（県庁職域支部）  
神奈川県総務局参事・施設整備課長  
常任理事・技術支援委員会委員長・  
景観整備機構委員会副委員長他

「平成最後の表彰を受け誠に光栄に思います。士会発展の為、今後も尽力していきたいと思ひます。」

## ■伝統技能者表彰



**芹澤 久男 氏**（小田原地方支部）  
（せりざわ ひさお）大工（建築）

住所地：小田原市上曽我  
勤務先：（有）芹沢建設 代表取締役  
伝統技能者表彰を受賞された芹沢さんに、インタビューしましたのでご紹介します。

### ◆プロフィール

大工の家の長男に生まれ小学校の頃から手伝いをしていた。県立小田原城北工業高等学校建築課を卒業後、父の元で大工になる。

- ・地域青年団活動を10年間行う 会長歴任
- ・一級技能士（建築大工）取得
- ・指導員（建築大工）取得
- ・一級建築士 取得
- ・小田原大工職組合 現監査役
- ・足柄建築組合連合会 会長歴任

### ◆大工になったきっかけ

子供の頃から大工になるものと思っていた。隣近所の人たちの期待もあった。

### ◆代表的なお仕事

- ・菩提寺 竺土寺の鐘楼堂新築(38歳)
- ・平成10年度農村活性化住環境整備事業 上曽我集会所建設工事
- ・II 交流施設建設工事
- ・寺本堂 数ヶ寺



### ◆現在のお仕事

大工職人を数名雇い建築会社を経営。木造建築を主に請け負っています。来年3月までに某寺の客殿、庫裏の新築工事完成を目指しています。



### ◆心がけていること

仕事は選ばず、縁があり頼まれた仕事を一生懸命に。建築は各職方とのつながりと協力ですが、かたち作り（屋根の細部等木割り）や下地作りは大工によって完成が左右されるので大事なところ。寺社等の仕事は、木場や山へ出かけ自分の目で見て材料を選べます。

### ◆受賞の感想

自分の年齢、経験の積み重ねを改めて思い出しました。ご指導くださった設計の諸先輩方に感謝申し上げます。



### ◆最後に、芹沢さんのプライベートと今後の活動についてお伺いしました。

家族が増え幸せを感じる。  
山車の保存活動 車輪(樺材直径60 cm厚20 cm)の作成及び取り替え。  
今まで培ってきた経験技術で地域に貢献していきたい。

これからも、益々のご活躍をご期待いたします。

# 第16回活動交流会 **かながわ建築士の集い**

## ＜実行委員長挨拶＞

上原 伸一

11月24日に川崎で開催されました第16回活動交流会「かながわ建築士の集い」には、多くの会員の皆様にお集まり頂きありがとうございました。ご来賓の方々をはじめ120余名の会員を含む150名を超える方々に参加をいただき、無事成功裡の内に終わることができました。

実行委員会立ち上げから約半年、～成長し続ける川崎市の木質・再生への取り組み～をテーマとし、川崎支部、青年委員会、女性委員会が協力し準備を進めました。

神奈川県建築士会で毎年開催されていた交流会が一巡し、新たなスタートの一步としてふさわしい大会にという強い思いで大会開催を目指しましたが、厳しい状況下に置かれている建築士及び建築士会にあって、多くの参加者が共に学び共に楽しみ交流し親睦を図り、記憶に残る次に繋がる大会となれば幸いです。

最後に、開催にあたりご後援並びに協賛いただいた各団体各企業様、またご講演いただいた安井先生、演奏いただいた洗足学園音楽大学石井先生はじめ学生の皆様には、心より厚く御礼申し上げます。



全体の集合写真

## ＜第1部：交流会＞

前島 浩吉

第1部交流会では、今回の大会テーマである～成長し続ける川崎市の木質・再生への取り組み～について川崎市の活動報告があり、木材利用促進についての現状を知ることができました。また、支部・委員会活動報告会では14の活動報告があり、自身が所属している支部、委員会以外の活動について理解が深まったのではないのでしょうか。そしてこの発表を通じて建築士の新たな交流に繋がれば大変喜ばしいと思います。



活動報告会会場の様子



建築甲子園作品発表会の様子

第1部の最後には高校生の「建築甲子園」作品発表会が実施されました。川崎市立川崎総合科学高等学校の3名の生徒さんの発表は各々、自分の考えをしっかりとめて、笑いも交えながらの素晴らしい発表で、建築への強い思いを感じることができました。建築士も、これから建築を目指す高校生も一緒になって交流することができた有意義な交流会になったと思います。今回の川崎から『かながわ建築士の集い』を次へつなげ、さらに素晴らしいものにしていてもらいたいと思います。また、発表にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

## ～成長し続ける川崎市の木質・再生への取り組み～

### <第2部：講演会>

岸田 謙三

第2部は、「改正建築基準法の概要と木造建築の可能性」と題して安井昇氏（桜設計集団一級建築士事務所代表、NPO team Timberize 副理事長）に御講演をいただきました。安井先生は早稲田大学で木造建築の防火に取り組まれていることから国土交通省の委員会で法改正に携わっておられ、今までの研究で培われた豊富な知見と法改正（2018.6.27 公布、2019.6.27 までに施行）の概要について実験の動画や写真を交えて分かりやすくご講演いただきました。



安井先生による講演

法改正の背景として、まず2016年12月22日新潟県糸魚川で起きた40,000㎡の大火をあげられ、準防火地域にも関わらず建築物の防火改修・建て替えが進んでいなかったことから防火戸ではない窓からの延焼が大火の一因となったとのこと。また、2010年に公共建築物等における木材利用の促進に関する法律が公布されてからは、鉄骨造、RC造の建築物を木造化することが国の責務になっており、木造で建てられる手段を増やしているとのこと。動画では3階建て木造学校の実大火災実験で、窓が熱で割れて上の階に炎が入っていく様子などを解説され、延焼の経路が開口部であることがよく理解できました。

上記のような背景もふまえ、今回の法改正では、①建物の防火建て替えを促進するため準防火地域で準耐火建物とすれば建蔽率を10%アップ、②3階建て200㎡以下の木造戸建住宅等の福祉施設への用途変更に伴う合理化、③木造建築の推進（木材を太くすることで6階建てまでを準耐火建築物で建築可能など）などが行われたとのこと。最後に、木には燃えるイメージがあるが、現代版の“火”と“木”のいい関係をつくりたい。改正法を建築士の皆さんの今後の仕事に活かしてほしいとお言葉をいただきました。

### <第3部：懇親会>

三宅 淳一郎

第3部では初めに建築甲子園の優秀賞の発表があり、「集落」をプレゼンした高松君が表彰されました。これは第1部の参加者からの投票によるものです。

懇親会は渡邊副会長の乾杯により開始すると、前方からは聞きなれない、美しく透明感のある響きを持つ魅力的かつ迫力のあるサウンドが。洗足学園音楽大学打楽器コースによるスチールパンバンドです。前半は演奏会の音色の中進行し、後半は協賛会社の紹介、各支部・委員会の紹介があり、親睦を深めることができました。



懇親会の様子

### <開催支部長挨拶>

金子 成司

今回の活動交流会（かながわ建築士の集い）は、これからの活動交流会のモデルになるよう川崎支部を中心にこの半年間企画を準備してきました。開催後も多くの皆様からお褒めの言葉や感想などを多く頂くことができ、ありがとうございました。企画的には欲張り過ぎの感もございましたが、これだけ多くの参加者にお越し頂いたのは、すべての支部と委員会にご協力を頂いた結果だと分析しております。また、支部内においても大きな負担をかけてしまったのも事実ではございますが、何もしない会から何かができる会への自信に繋がったような気がしました。今後も継続的に開催できることを期待して、次回も皆様の参加をお待ちしております。本当にありがとうございました。



優秀賞の受賞者と実行委員長

## 支部・委員会活動報告

### 中支部

#### 日帰りバス研修旅行

##### 「木の故郷天竜・遠州横須賀街道」

吉川 卓也

去る10月27日(土)定刻通り参加者16名が乗車したバスは東名高速道路を走り最初の目的地浜松市天竜区の(株)フジイチへ向かいました。この会社は前身が古く、室町時代から植林業として地域の繁栄や発展に大きな影響を与えてきた長い歴史を持つ老舗です。土場と呼ばれる場内作業場にトラックに満載された大量の丸太が運ばれ、大型フォークリフトがそれを降す様子は迫力満点でした。先方の販売部長の内山氏をはじめ女性スタッフの小峰氏に工場内を案内して頂き、製材の工程や天竜材の特徴について色々と説明をして頂きました。興味深い話ばかりでとても有意義な時間を過ごす事が出来ました。次に向かった先は天竜国産材事業協同組合です。あいにくの休業日でしたが、材木を乾燥させる窯などを拝見させて頂き、最後にこの研修旅行の企画にご協力いただいた静岡県建築士会西部ブロックの皆様とご一緒に記念撮影をしてお別れしました。鈴木様、里見様、内田様、本当にありがとうございました。



「天竜国産材事業協同組合」にて

昼食は、「涼御所茶屋にゆうやっこ」でちょっと贅沢に地元浜松特産の鰻を満喫です。余りの美味しさに皆さんつい黙り込んでお箸を進めていたのが印象的でした。行程最後の目的地は掛川市横須賀地区「遠州横須賀ちっちゃな文化展」です。こちらは地域の古き良き街並みをそのまま美術館にするという試みで、全国から集まった芸術家の作品を展示したり、町の職人さん達がそれぞれの技を披露されていたり、とても賑やかでした。今回の研修旅行は、参加者16名中9名が支部外の方の参加で、とても盛況の内に終える事が出来ました。企画する側として今後もより一層充実した内容をご提供できる様心掛けて参ります。次回も多くのご参加をお待ちしております。ありがとうございました。

### 湘南支部

#### 秋の行事から

##### 「旧東海道の邸園をたずねて」「尺八コンサート+会員交流会」

湘南支部ではこの秋、市民団体との共催事業を試み、「湘南邸園文化祭2018」に二つのイベントで参加しました。建築士会の存在を市民の皆さんに知っていただく機会になったかと思えます。

10月8日(祝・月)27名参加。9時半藤沢駅→鉄砲宿。侯野別邸では再建の設計監理を担当した山手総合計画研究所の戸田啓太氏より詳細な説明があり、



再建された侯野別邸

次の旧モーガン邸では守る会の解説で庭園を一周し、冷たい飲み物のサービスもあり、庭園公開日の雰囲気を楽しんでいただきました。

旧東海道を下り、遊行寺坂途中の有田家へ。主屋と土蔵、現代アートの展示を拝見し、旧藤沢宿の町家と蔵を見学。関次商店と旧稲元屋呉服店ではアート展示があり、普段は入れない蔵の中も見せていただきました。近く関次商店はパン屋として利活用が始まります。終点は蔵まえギャラリーで、建物見学とコーヒータイムです。

11月10日(土)、この日は蔵まえギャラリーの内蔵にて支部会員の橋本守さんの尺八に春日勇さんのギター伴奏でコンサートを催しました。蔵の中は良い響きで大成功でした。開演前には米寿を迎えた建物の解説付き見学を、コンサート終了後は会員交流会を土間でおこないました。コンサート参加者は14名、会員交流会は8名参加でした。

交流会はシニア会員、お試し会員、支部役員という顔ぶれで、建築の話や音楽の話で会話も弾み、有意義なひと時を過ごしました。今後にご期待ください。

(湘南支部情報委員会)



米寿の蔵で尺八コンサート

## 支部・委員会活動報告

### 川崎支部

#### 「揺らして揺らして壊す」かわさき市民祭り

金子 成司

11月2日～4日は、かわさき市民祭りに支部有志メンバーと共に防災啓発活動を兼ねて建築士会PR活動に今年も出展してきました。昨年同様に木造住宅倒壊模型を使用しての活動は、子ども達に大人気で倒壊してからの復旧作業は、大工さんになった気分も味わえ最近の住宅の構造も学べる場になりました。中には現行基準補強後であっても倒壊させないと気が済まない元気な子どももいたようでした。倒壊した場合は、応急危険度判定の説明も行いました。「赤紙が貼ってあったら自宅でも帰宅しないでくださいよ。」の説明に驚きを隠せない市民もいました。

今回の目玉は、「電動液状化実験」。昨年まで手動で揺らしていた液状化現象は、メンバーの負担が多く難しいものでありましたが、今年は電動に改良された模型では、誰にでも使用することができ終日運転が可能なものとなりました。川崎市よりお借りしました区ごとの液状マップの効果もあり、自分の地域の地盤を知らされると落胆する市民もいたようでしたが、模型の様に対策をしていけば防げることも周知しました。

今年は、大阪北部地震や北海道胆振東部地震の影響もあり市民に関心が高い活動となりました。必然的に私たちの説明にも力が入り、建築士が様々な業務と共に減災、防災、復旧などで現地でも活躍している建築士がいることもPRしてきました。

最後に、今年は支部の役員だけでなく、新会員はじめ会員親族と共に「揺らして揺らして壊す」市民祭りは盛況の中、無事に終えることができました。参加して頂きました皆様、本当にありがとうございました。



木造住宅倒壊模型で実験している様子

### 女性委員会

#### 「ル・コルビジェ カップ・マルタンの休暇小屋原寸レプリカ」見学記

清水 麻紀

11月25日 埼玉県ものづくり大学キャンパス内にある原寸レプリカ見学しに茶谷委員長と清水の2名で伺いました。今回の目的は次年度のおりがみ建築にてコルビジェ作品を取り上げ、女性委員会でワークショップを主催するための下準備との位置づけとしての訪問であります。見学した休暇小屋は本物は地中海フランスにある世界遺産でもあり、コルビジェ最後の住まいそして、彼の理論であるモデュロールを体現する自身の作品でもあります。レプリカといっても学生による現物実測かつすべて金物の一つに至るまで精巧な再現を行っており、実測当時のスケッチと合わせて素晴らしい出来栄となっております。ということで、出迎えていただいた、八代教授と大竹助教授2名により、再現当時の気づいたところや休暇小屋のコルビジェ作品としての位置づけなど解説していただきました。実際の空間というのは不思議なもので窓を開け放つ前、



窓を開けた後で内装に大胆に使われている4原色色彩の空間に与えた影響をととても感じることができ、これはどこかで再現できないものかと、とても感動しました。

モデュロール（本物はレストランと接続している部分だが、再現されていないため壁として壁画にて実寸大のモデュロールを記載している）

光を浴びた小屋は本当に小さく見えますが、内部はこれぞ、コルビジェという要素にあふれていました。2つの小屋を一通り見学したあと、ものづくり大学建設学科構内を案内していただきました。大竹助教授と今後委員会のイベント日程などを調整する約束が出来ました。休日にも関わらず、内部を見せていただき大学構内も案内解説いただいたお二人にこの場を借りて感謝申し上げます。

「カップ・マルタンの休暇小屋レプリカ」について外観は構内いつでも自由に見学できますが、内部観覧についてはオープンキャンパス開催日（要インターネット検索）に一般公開されています。

## 支部・委員会活動報告

### 女性委員会・防災委員会

**災害図上 (DIG) 体験ワークショップ IN 湘南**  
女性委員会・防災委員会による防災コラボセミナー  
協力：防災だるま 共催：湘南支部  
会場：藤沢市役所本庁舎 5階市民利用会議室 2

今年初めに完成した藤沢市役所新庁舎（設計：梓設計）にて開催。屋上庭園に面した会議室は、明るく、気分良くワークショップが出来きました。参加者 27 名。3 グループに分かれ、防災だるまの白田氏、中村氏のナビゲートで、地域の地図に、ステップ毎の作業をしながら、進められました。最後の発表では、一喜一憂、充実感のあるワークショップでした。

#### \*ワークショップに参加して1

「いつまでもあると思うな、親と金、無いと思うな、運と災難」という諺がありますが、私たちは慌ただしい社会生活の中で親、金、運、災難、がつい頭から離れてしまう時があります。特に災害に関しては個々の単位から地域社会に至るまで、大地震、ゲリラ豪雨、大型台風等、常日頃から備えていなければならないと思います。11月17日のDIGワークショップは真剣さ有り、楽しさ有り、アイデア有り素晴らしきものであつたと思いますが、次回に繋げる課題も残してくれたと思います。それは地域住民の方々の参加と、このDIGを基に実際に町歩きシミュレーションを行うことではないでしょうか。多くの地域住民の方々が住宅の安全性、各施設の安全性、道路の安全性、身近な避難所の確保、地域地盤特性の認識、危険物施設の把握等、大規模災害に備え、協同意識を持つことが大切ではないかと思ひます。大規模災害に遭遇しても仮設住宅の必要性が極力少ない地域であることを願っています。

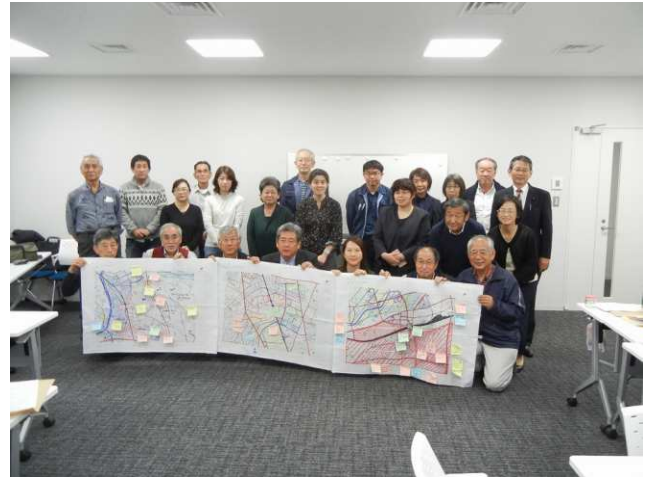
湘南支部：福田亮一



\*ワークショップ中

#### \*DIG (Disaster Imagination Game) とは？

災害図上訓練の一手法DIGは、自分たちの生活する場所の地図を広げ、地形や道路、ガソリンスタンドや役所、学校など都市施設など地図にマーキングし地域の防災力をゲーム形式で読み解きます。その過程で地図にある情報からどういうことが、想定されるのか、お互いに考えを述べ合っ、災害時についてイメージを共有します。



\*ワークショップDIG完成地図・集合写真

#### \*ワークショップに参加して2

以前、市主催のHUGに参加し、避難所運営の難しさを体験しました。今回は私の居住地を題材としたDIGに参加し、地図と現地の違いを確認する良い機会を頂きました。HUGもDIGも自身の係わる地域の住民同士で体験し、情報を共有する事が大切だと思ひます。

地図と用意した資料を基に市外の参加者と市内の参加者が加わり色分けをしましたが、地図で判断できない部分が多くあります。茅ヶ崎を題材にしましたが、是非自分の住む地域で検証して下さい。

私の住む地区では、現地を歩き危険箇所を、僅かですが改善した所もあります。

HUGもDIGも検証して**気付く**事が大切です。会員はもちろん建築士以外の誰もが気付き、各自の防災意識を高めていくことが重要です。

防災・耐震への提案も、所有者と行政の意識や経済力等、障害もあり、思うように進まない現実です。

防災マップに頼らず、避難所に行くより自宅での持久力を養い、自己の緊急判断力を磨き、各自が備える事が重要だと改めて感じました。「そなえよつねに」

湘南支部：春日 勇

## 支部・委員会活動報告

### 技術支援委員会

◆委員長から一言◆ (村島 正章)

今年はCB塀転倒による事故やオイルダンパー改ざんなどが大きな社会問題になりました。委員会では県内市町村のCB塀撤去等助成一覧を作成し、今月中には士会HPにアップ予定です。参考にしてください。

■建築環境部会 (石丸 由美子)

平成30年11月17日(土)もみじがきじょいぶらざ神奈川婦人会館において、株式会社神奈川建築確認検査機関 評価部長 佐々木隆氏をお招きし「実務に役立つ 各種住宅評価制度の解説とお得情報」講習会を行いました。建築士会会員27名、一般の方3名の合計30名が参加しました。

各種認定、表示制度ごとに必要な書類(評価書、適合証、証明書等)や該当する評価等級、また各手続きの留意点、支援施策を再認識した講習会であった。そのひとつ住宅性能表示制度では、最大10分野ある性能のうち必須項目である、構造の安定・劣化の軽減・維持管理と更新への配慮・温熱環境とエネルギー消費量の4分野が長期優良住宅認定制度の審査対象にも該当、評価等級は異なるなど、改めて相違点の再認識をしました。

建築物省エネ法の住宅に係る基準となる外皮性能と一次エネルギー消費量については、限られた講習時間であったため、評価基準算定方法の説明までには至りませんでした。建築環境部会では、算定方法やプログラムの選定などさまざまな勉強会を行っています。社会の発展にあわせ、住まいの水準と質も変化し、建築設備や建材もめざましく変化してきました。

きちんと手入れをしながら長く大切に住まい続けるための性能維持や保全管理は、居住者が快適で健康的な暮らしを続けることにつながり、住宅の価値向上にもなります。

これからも建築環境部会ならではの情報の発信、対話に取り組んでゆきますので会員の皆様!是非お気軽に勉強会、部会に足をお運びください。

今回、佐々木隆講師には、何種類にも及ぶ資料をご用意いただきましたこと この場で御礼申し上げます。



講師  
佐々木隆氏

■木造塾部会 (遠藤 大士)

平成30年度 第1回 木造塾講習会

【上質に暮らす おもてなし住宅の作り方】

平成30年10月6日、建築家の関本竜太さん(リオタデザイン主宰)をお招きして木造塾の講習会が開催されました。会場は波止場会館 5階多目的ホールで、46名の方々にご参加頂きました。講習会は関本さんの建築感に大きな影響を与えたフィンランドでのお話から始まり、続いて、ご自身の仕事の進め方をプランニング編、ディテール編と分けてお話して頂き、最後には「リオタ流エスキースの流儀」と称して実際に使われている道具の紹介から、エスキースの重ね方、プレゼンの仕方まで、日頃は聞くことが出来ない関本さんの「おもてなし住宅」の作り方の極意をお話して頂きました。講習会全般に渡り示唆に富んだお話が続きましたが、とりわけ参加者の反響が大きかったのは、関本さんが日頃からスタッフに伝えている「どこを向いて仕事をしているのかを考える」という言葉でした。この言葉には、「建て主に喜んでもらうために、という目的をぶらさない。」「上司の顔ばかり見てはいけない。」「デザインのためのデザインをしてはいけない。」という関本さんの思いが込められているとのことでした。クライアントは当然のこと、構造家、職人、スタッフ等の協働者とも会話のキャッチボールを重ね、それぞれの魅力を十二分に引き出しながら高い次元でまとめ上げられる「リオタ流おもてなし住宅の作り方」の一端に触れることが出来る貴重な講習会となりました。講師の関本竜太さん、そしてご参加頂きました皆様ありがとうございました

